

東日本大震災聴覚障害者救援中央本部

救援ニュース 第12号 (2012. 3. 22 発行)

【発行責任者】東日本大震災聴覚障害者救援中央本部 事務副総括 中村慎策

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 130 SKビル 8 階 財団法人全日本聾唖連盟内

TEL:03-3268-8847 FAX:03-3267-3445 <http://www.jfd.or.jp/tohoku-eq2011/>

東日本大震災聴覚障害者救援中央本部長、三県本部長からのメッセージ

「大震災から一年を迎えて」

2012 年 3 月 11 日

東日本大震災聴覚障害者救援中央本部長

石野富志三郎

本日で、日本はもちろんのこと、世界中の人たちを震撼させた東日本大震災から丁度 1 年になります。

立ってもいられない大きな揺れ、その後の沿岸の街を襲い、全てのものを破壊し、多くの命を奪った巨大な津波、それに引き続いて起こった史上最悪の原発事故。あの時、テレビなどにより流されたこれらの惨状を目にして、私たちは自然の脅威の前に無力感を感じ、立ちすくみました。

しかし、すぐに、一刻も早く被災した仲間たちを助けなければと思い、直ちに全国手話通訳問題研究会、日本手話通訳士協会と共に東日本大震災聴覚障害者救援中央本部を立ち上げ、救援活動に取り組みました。これまで、皆様方のご協力により、物資、手話通訳等派遣、被災者を元気づけるイベント等の開催、心のケアなどの支援に取り組んできたことができました。義援金も多くの方々からたくさんの暖かいご寄付をいただき、6 千万円を超える金額を集めることができました。ここに改めてお礼申し上げます。

被災地も震災発生当初に比べると、やや落ち着き始めてはいます。しかし、仕事を失ったままの人や、仮設住宅等に避難している人や、精神的な傷を負っている人たちはまだまだ多く、完全な復興への道のりはまだまだ遠い状態です。引き続き、さらに力をいれて支援に取り組んでいかなければなりません。

義援金も目標にはまだ達しておらず、被災者の方々全てに十分な金額を配分するにはまだまだ非常に不足しております。そのため、義援金募集期間を延長することになりましたので、引き続き義援金募集にご協力くださいますようお願いいたします。

震災により失われたものを完全に元に戻すことはできませんが、彼らが、住まいや仕事を確保し、身体、心の健康を取り戻し、凡ゆる面においてほぼ震災の前と同じような生活を送ることができるようになるまで取り組んでいきます。支援の期間は相当長いものになることは間違いありませんが、最後まで続けていく覚悟でいます。皆様におかれましても引き続きご協力をお願い申し上げます。

「1年を経過した現状と、今後の復興に向けて岩手本部の動き」

東日本大震災聴覚障がい者支援岩手本部
本部長 高橋幸子

今日3月11日(日)で1年目を迎えました。

岩手は、震災直後から社団法人岩手県ろうあ協会と岩手県立視聴覚障がい者情報センター、岩手県が連携しながら、安否確認してまいりました。

東日本大震災聴覚障害者救援中央本部の心強い支援の力を得て、東日本大震災聴覚障がい者支援岩手本部を4月3日にスタートし、人的支援、物資支援、心のケア等を目的に被災地への活動が続けてきました。

岩手本部の構成団体から1年間の支援活動について、それぞれの団体として乗り越えてきた苦労を含めた報告を頂き、支援者側もよく頑張った事に深い敬意を込めて感謝をしております。各団体の皆さんのおかげで、沿岸の方々も少しずつ落ち着いてきています。

しかし、日中に起きた大災害を目の当たりにした人たちが抱える言葉にできない見えない悩み等がたくさんあり、将来に対する不安を我慢しつつ、暮らしているに違いないと思います。一緒に前向きにいこうとの声かけを、これからも息長くゆっくり続けていきたいと思います。

私達は、3.11の事は絶対忘れないし、次の時代を担う人々へしっかりと受け継いでもらうため、私たちの経験の中でできたこととできなかったことを検証し、災害対策体制をきちんと伝えていくことで、支援して下さった全国の方々への恩返しをしたいと思います。

東日本大震災聴覚障がい者支援岩手本部は、岩手県立視聴覚障がい者情報センターにある印刷室を貸して頂き運営してきましたが、3月13日から社団法人岩手県ろうあ協会に事務所を移し継続していくことになりました。構成7団体はこれからもそれぞれの支援活動を続けまいります。今後とも宜しくお願い申し上げます。

「震災から一年 現状とこれから」

東日本大震災聴覚障害者救援宮城本部
本部長 小泉正壽

1年前のあの日、大地が大きく揺れ、津波が襲い、不安に震える私たちの上には無情にも冷たい雪が降ってきました。自然の脅威をまざまざと見せつけられたあの震災から1年。全国の皆様からの温かい支援、心強い励ましに対し、深く感謝を申し上げます。宮城に心を寄せてくださっている全国の皆様の思いに背中を押してもらいながら、宮城は、復興への道を走り続けています。

大震災以前から宮城では、県ろうあ協会を中心に関係団体と共に災害対策に取り組んできました。未曾有の大震災に対し、既存のマニュアルにこだわることなく「救援宮城本部」に切り替え、現場重視・スピード重視、かつきめ細かな支援ができたこと、そして現在、県の被災聴覚障害者情報支援事業「みやぎ被災聴覚障害者情報支援センター」につなげられたことは大きな成果です。また、全国から宮城入りし、行政窓口等に配置された通訳者の方々の活動は、地域の聴覚障害者や受け入れ側の自治体に対し、設置通訳の重要性を示す生きた啓発となり、名取市と亘理町において手話通訳者設置に至っています。

※次ページへつづく

※前ページより

1年を迎えたいま、「生きるための支援」から「暮らすための支援」、さらには「地域で安心して暮らすための支援」へと転換期を迎えています。生活再建のための情報支援や、ひとりひとりに寄り添う相談支援が欠かせません。聴覚障害者が安心して暮らす地域づくりには、聴覚障害に関する啓発や、各市町村の行政やさまざまな支援団体とも連携した取り組みが必要となります。

今後、改めてこの震災と向き合い、記録を残し、検証し、緊急時の情報伝達手段の構築や、新たな防災意識の向上のための取り組み、支援に関するマニュアル等の整備などにつなげていかなければなりません。

一日でも早く、住み慣れた地域の中で安心した暮らしができるよう、多様なニーズに応えられる細やかな支援を継続していきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

「震災から一年の現状と今後について」

東日本大震災聴覚障害者救援福島県本部
本部長 吉田正勝

今までに想定してもいなかった、あの大地震から1年の間、被災された方の支援と復興に向けて、中央本部の協力を得ながら、福島でも救援本部を立ち上げ、被災者の安否確認から支援・相談・情報提供などに全力をあげて取り組んできました。ですが、1年経った今でも、災害が終わったわけではありません。故郷に帰りたくても戻れずに仮設住宅にいる人、県外に移転をせざるを得ない人たちがいます。そして、県内の放射能汚染など、なかなか解決できない問題があります。

震災後、全国から頂いた救援物資を被災者に届けたり、被災地の個別訪問を行いました。また昨年7月には、県内の関係者が一堂に会するイベント「元気・笑顔 with ふくしま」を開催し、震災後はじめて県全体で集まり、イベントを通して皆の笑顔で元気に前をすすむことができました。また、原発事故による損害賠償に関する個別相談や学習会を行ったり、聴覚障害者の実態調査なども行ってきました。更に、各地域で放射能に関する学習会を開いたり、万が一の災害に備え、地域の連絡網作成といった活動に取り組んでいます。今後は地域単位で安否確認や情報提供などが行えるようなネットワークづくりが課題です。全国各地から依頼があり、福島の災害について、直面したトラブルについて等を、救援本部のメンバーが出向いて講演などを行っています。救援本部として、今後も支援や情報提供を継続していきたいと思っています。

福島県にはいまだに情報提供施設がなく、震災後の安否確認や情報提供などが滞る中で“もし情報提供施設があったら…”という悔しい思いがありました。「災害時のネットワーク拠点となり、中心的機能を果たす公的な場所」として、震災後も環境整備を求めて、県との話し合いを重ねています。救援本部が災害時に果たした役割や、情報提供施設の必要性について具体的な資料をもとに説明する中で、徐々に理解が得られてきています。今後も県内の聴覚障害者の支援のために、情報提供施設の建設に向けての取り組みを、救援本部の活動と同時並行しながら行っていきたいと思います。

「東日本大震災聴覚障害者救援中央本部の活動」ポスターの展示状況

「東日本大震災聴覚障害者救援中央本部の活動」ポスターを多くの地域で展示いただきまして誠にありがとうございます。展示いただいた協会より報告をいただいておりますのでご紹介いたします。ぜひ、地域の総会、行事等で展示いただき、被災地の聴覚障害者の生活が本当の意味で元に戻るまでに必要な支援活動に結びつけていただきたいと思います。

＜お申込み先＞救援中央本部情報・広報担当：後藤・中村 FAX03-3267-3445

＜3月4日：山形県「第29回耳の日記念集会」＞

感想

- ◆1年が経つというのに被災状況の写真を見ると、被災者のことを考え胸が痛くなりました。
- ◆地震発生時から今までの各県の取り組み、また中央本部の取り組みをわかりやすく見ることができました。写真がたくさんあったので良かったです。ただ、東北訪問のところでは山形の写真がなく残念でした。震災から1年が経ちますが、まだ終わっていない、まだまだ支援は続けていく必要があると感じました。



＜3月4日：山梨県「耳の日フェスティバル」＞

感想

- ◆ポスター展示を見たことで、改めて東日本大震災の被害の大きさや東日本大震災聴覚障害者救援中央本部の活動状況がわかって参考になった。
自分たちに出来る支援はどうなのか考えさせられた。



☆☆☆ 義援金のお願い ☆☆☆

被災地の聴覚障害者ら仲間の支援のために皆様のご協力をお願いします。

- ① 銀行：みずほ銀行 江戸川橋支店 普通預金 口座番号：1511276
名義：(財)全日本聾唖連盟 災害救援基金 代表 石野富志三郎
(ザイダンホウゼンベンニホウアレンメイ サガ イュエンキョウダ 化ヨウ イノゾグ サブ 叻)
※みずほ銀行内（本・支店間）での振込の場合、振込手数料は免除されます。
- ② 郵便振替：記号 00160-9-166840 名義：(財)全日本聾唖連盟
※通信欄に「東日本大震災の災害義援金」とご記入ください。

義援金総額 61,987,891 円 (1,183件 2012年3月12日現在)